



75期生の皆さん、併願作戦は大丈夫ですか？

11月に入り、共通テストまで70日あまりとなりました。あせっている人、計画通りに順調な人、ようやく実力が伸びてきた感じている人と色々な人がいると思いますが、現役生が浪人生に優る点の1つは、「最後の追い込みで実力がアップする」という事です。受験の当日まであせらず、あきらめず歯を食いしばって頑張ってください。各大学の赤本がもう出そろっていますので、志望校の赤本を購入し、過去の問題を具体的に解いていき、傾向にあった勉強をして行きましょう。今年は、浪人生も少ないし、私大の定員抑制も控えめで、不安にならず集中して第一志望を狙っている人にとっては、チャンスの年になります。体調管理に気をつけ、できることからひとつひとつこなしていきましょう。

1. 第一志望をつらぬく

第一志望校は当然、「本当に行きたい大学」を選び、現在の自分の実力がまだ不足していても（ほとんどの人がそうである）、目標に向かって努力するしかありません。

第一志望を妥協すると、やる気も失せて、大体は学力の伸びも鈍くなってしまいます。国公立大は、共通テスト後に出願するので、共通テストの得点次第で、志望を変えたり、中期・後期も出願できますし、私立大も併願校を幅広く考えることで、第一志望を下げなくても対応できます。最後まであきらめない姿勢が、奇跡の成長を生みます。



2. 願書は年内に手元に

私立大学はもちろんのこと国公立大学も、先日配布した「INDEX2023」などを通して、年内に願書（募集要項）を取り寄せましょう。国公立大の出願は共通テストの自己採点結果が出てからすぐに願書を出し、後期受験校の出願も前期受験の時と同じなので、その間に願書を取り寄せている間は、間に合わない可能性があります。最近主流になったネット出願のみの大学は願書がなく、入試情報サイトからの出願になります。

3. 併願校の数はいくつぐらいか

併願校が多すぎると1月末から2月下旬までに、次々と受験・発表が続き、へとへとに疲れてしまう可能性があります。また受験の最後の仕上げである大切な時期に集中した勉強ができなくなるので、可能な範囲で併願校はしばったほうがよいです。共通テスト利用の私大の出願は願書を出すだけで合否が決まるので、併願校を増やす意味では役に立ちますが、一般受験よりも合格するのが難しい場合もあるので、共通テスト出願では、滑り止め校をおさえるなどうまく利用してください。第一志望のレベルから安全

圏のレベルまでまんべんなく受験するのがポイントです。

4. 併願校のレベル

一般的には、「挑戦校」：ちょっと無理かなと思っても、得意分野が出題されて合格する可能性もある。模試の偏差値+10以上の大学。

「目標校」：ここが本命の所。模試の偏差値+3～8程度の大学を1～2校

「実力相応校」：現在の実力レベルの範囲を1～2校。

「滑り止め校」：浪人不可の場合は絶対に必要。本命よりも前に入試の雰囲気慣れる効果もあるので、（個人の実力にもよりますが）必ず、受けてください。

5. 日程の相性

受験は受験時間も長く丸一日全力投球するので、相当疲れるものです。これを何日も連続させると集中力を失ってしまいます。試験日をよく調べて、なるべく連続しないように併願校を選びましょう。私大では、多様な入試パターンがありますが、最近人気の「全学部日程」は難易度が少しあがるので、注意が必要です。

もう一つの相性として、学費の納入期限があります。私立大のほとんどは手続きをすれば一定の期間学費の納入を待ってくれます（入学金は払う）。

第一志望校の合否が判明してから手続きや学費納入の締め切りがある併願校を選びましょう。

先輩の併願作戦～成功パターンと失敗パターン～

【成功パターン例】

模試でA判定の東洋大とB判定がついていた成蹊大を共通テスト方式で出願し、一般受験でも練習のために成蹊大を受験しました。その結果合格して自信ができました。共通テストが予想以上に高得点だったので、担任の先生と相談して、共通テストの結果でB判定だった埼玉大経済学部（国際バカロレア入試3教科型）にも出願しました。

D判定の第一志望校早稲田を目指して勉強していたので、C判定だった明治大にも自信を持って受験できました。早稲田は受験日程が遅く、受験する前に、明治大の合格を知っていたので、気持ちに相当余裕があったと思います。第一志望の早稲田や埼玉大に合格できたのは、併願パターンがうまくいったおかげです。

【成功パターン例】

共通テスト重視の横浜国立大学経営学部を第一志望にしていました。私大入試も考え、英語・国語・世界史は重点的に勉強して共通テストの得点源にしました。共通テストの結果、横浜国立大の前期は、合格がC判定でしたが、受験することにし、滑り止めで中期を高崎経済大、後期を埼玉大の経済学部にしました。私立大は法政大、國學院大、駒澤大を受験し、共通テスト5教科利用で成蹊大に出願しました。結果は横浜国立大は不合格でしたが、私立大は國學院をのぞく全てに合格し、国公立は埼玉大経済学部、高崎経済大に合格し、埼玉大に進学することにしました。

【成功パターン例】

第一志望の早稲田大学の前に、3日以上試験日を重ねず、何校か受験して慣れると同時に実力も上げて行きました。試験慣れは重要だなと思った。第一志望を軸にして逆算して、日程や難易度を考えて無理しない形で決めました。良い波に乗れるように、担任の先生や進路の先生のアドバイスを受けるといいです。

【失敗パターン例】

模試でB判定、共通テスト結果の判定でB判定だった神田外大を共通テスト出願して滑り止めにしましたが、共通テスト出願で不合格（マークミス？）だったので、すごくあせりました。その後模試でD判定の獨協大学や明治学院大学を受けた時は緊張しまくって、頭が真っ白になり、結局2校とも不合格でした。せっかく頑張ったのに、浪人かと落ち込

みました。模試でB判定の神田外大の一般入試も受験しておけばよかったと思います。

その後受験勉強を継続しながら、学校で先生と面談し、まだ受験できる大学を探し、何とか3月入試で武蔵野大に合格できました。今は大学生活を楽しんでいます。2月は浪人を覚悟し、本当に良かったです。

【失敗パターン例】

東洋大に模試でD判定がついていましたが、東洋大は一学部だけ受験して、不合格。GMARCHや早慶上智大が第一志望で、実力が伸びている実感があったので、最後まであきらめずに、E判定の上智、学習院、立教、早稲田を連続受験し、全て落ちました。先生や親からは、日東駒専や成城や武蔵も受けた方がいいと言われましたが、バランスよく併願していれば、よかったと思います。その後浪人生活を経て中央大学に合格しました。

【失敗後成功のパターンその1】

ハイレベルな予備校に通ってしまい、ついて行けず、学校の授業やテキストを大事にして基礎を固めなかったのが、最初の失敗でした。明治大、法政大、芝浦工大、日本大の理工学部や千葉工大の工学部などセンター受験、一般受験含めてことごとく落ち、日本大の短大まで落ちたときは、心が折れて、浪人を覚悟しましたが、2月中ずっと基礎をやり直し、毎日長時間勉強しました。最後に3月入試で日本大生産工学部に合格したときは、本当に嬉しかったです。

【失敗後成功のパターンその2】

建築学科を志望して、東京都立大が第一志望でしたが、共通テストで失敗しました。勉強時間や基礎力不足で私大も東京電機大、法政大工学部、東洋大工学部、日大理工学部とことごとく落ちてしまいました。進路指導室で国公立の前橋工科大を紹介され、最後まであきらめず、抜けもれや弱点分野を総復習して何とか合格しました。地方の国公立大は狙い目です。



過去問を最大限活用しよう！

先輩たちは、秋から冬にかけて共通テストや大学別の過去問を解き始めています。自分の志望校に応じて、共通テストと大学別（国公立大2次試験・私立大一般入試）それぞれの過去問を解く時期や量を見極めることが大切です。先輩の中には、出題傾向の変化を考慮し近年の過去問だけを解いたりした人もいました。第一志望大学の赤本（過去問集）は購入した方がいいと思いますが、進路資料室や自習室でも貸し出し可能なので、借りて自習室で解いてみたり、コンビニでコピーするなど大いに活用してください。以下に先輩たちの過去問活用法を紹介します。

「共通テストは去年の問題だけでなく、予想問題も解いて慣れていきたい」

「悩んだり困ったことがあったら、少し勇気を出して、先生に相談してみよう。」

「各大学の過去問は出題傾向を把握する上で役立つが、何年周期で出題傾向が変わっているのかもしれないので、確認したほうがいい」

「センター試験の過去問の効果的活用法として、数学のセンター試験追試の過去問を45分で解くようにした。追試は本試験よりも難易度が高いが、時間内に解けるようになり、計算力の向上を実感できた」

「第一志望校の過去問で解けなかった問題があったら、そこで問われている基本をおさらいし完璧にした後、その大学より少し上のレベルの大学の過去問から類題を探して解いてみると確実に自信と力がつくと思う」

「共通テスト・各大学の過去問とも基礎ができていないから解くのを避けるのではなく、解きながら基礎の確認をしていくのも一つの手だと思う」

「12月くらいでよいが、第一志望の過去問を時間を計って解いてみてください。問題の時間配分の重要さがわかります。私の場合は、時間が足りなかったので、第一志望校の英語の過去問題集を使って、英語の長文の速読を重点的にやりました。」

「模試や過去問で間違えた問題の分野の参考書や問題集の該当箇所を反復した」

「共通テストの英語は長文が多く時間がたらなくなりました。長文は慣れるしかありません。センターの過去問や私大の過去問をじっくり読んで慣れていくとだんだん早く読めるようになります。その時に意味を理解して音読したりすると英文が頭に入ってきます。長文を解くついでに単語熟語も覚えましょう。立教や明治の過去問は良問です。難関大の英語問題に接していると共通テストの英語など簡単に思えますよ。とにかく量をこなしましょう。」

75期生のみなさんに今年度受験についてのアドバイス

まず、国公立大志望、私立大志望に分けて、アドバイスします。

【国公立大志望のみなさん】

模試や過去問、予想問題集で共通テストの出題に慣れ、「まず国公立大で合格を勝ち取る」受験戦略が重要です。また共通テ利用私大入試は多教科型も積極的に利用してください。私立の併願は、共テ利用も使って行きましょう。共通テストで配点の高い科目や二次（個別）試験の科目は私大の受験科目と重なることが多いので、重点的に伸ばしましょう。

【私立大志望のみなさん】

今年も、恐れず第一志望にチャレンジする人が成功します。自分の学力・位置を正確に把握して、受験戦略を立て、最後まであきらめないことが重要です。

次に学力別にアドバイスします。

【東京周辺国公立大・早慶上理GMARCH志望のみなさん】

志望を下げないで最後まで頑張りましょう。私大は第一志望校、実力相応校には多めに併願しましょう。

【関東近県国公立大・成成明武国・日東駒専志望のみなさん】

様々な方式や併願校を検討しましょう。最後まであきらめず、基礎を固め苦手分野を克服することが、合格への近道です。私立大では、追加合格が多いので、3月末までは入試と考えてください。

【地方国公立大志望のみなさん】

国公立大志望の人は、5教科以上受験していれば、想像以上に合格可能性があります。特に理系の人は、地方の国公立大まで広げると合格可能性が広がります。

私立大併願校出願バランス例(11月ベネッセ出願指導研究会より)

安全志向で志望者が減少している難関大は敬遠しすぎず出願をしましょう！

【学力が早慶上理GMARCHレベル】

挑戦校 4校位 実力相応校 4校くらい 安全校 2校くらい

【学力が日東駒専レベル】

挑戦校 3校くらい 実力相応校 4校くらい 安全校 3校くらい



【進路指導部より】赤本を積極的に利用する時期になりました。進路指導室にある赤本の貸出時間は**翌日の下校時間までです**。返却時に先生がいない場合は、進路室入り口の返却ボックスに入れておいてください。

朝の自習室は平日は7時30分（土曜部は8時）から開室しています。早朝は電車も空いているし、静かな自習室から1日を始めるのもオススメです。